

投与プロトコール 1コース21日間 制限なし 《開始時基準 PS:0~2 75歳以下》		投与量	投与日	投与時間	備考
プレメディ	グラニセトン注 ^{ハック} 3mg/100mL デキサート注 6.6mg/2mL	1袋 1V	Day1,8	30分 点滴	
①	ゲムシタビン 1000mg/m² 5%ブドウ糖液	mg 100mL	Day1,8	30分 点滴	
フラッシュ	生理食塩液	50mL	Day1,8	全開	
内服	エスワンタイホウ(TS-1)	mg	Day1-14	分2 朝・夕	BSA1.25m ² 未満→60mg/日 BSA1.25~1.5m ² →80mg/日 BSA1.5m ² 以上→100mg/日

<使用上の注意点>

【TS-1】

- ◆他の5-FU系薬剤投与中、及び中止後7日以内の患者は禁忌。
- ◆空腹時服用は避ける。(抗腫瘍効果減弱)
- ◆下痢:起こったら脱水を防ぐため水分を多めにとる。
- ◆口内炎:口腔内を清潔に保つ。ブラッシングやうがいなどを行う。
- ◆色素沈着:手足あるいは全身の皮膚、爪などにみられる。直射日光でさらに強まる傾向があるため避ける。

【ゲムシタビン】

- ◆投与継続可否などの目安:白血球数が $2000/\text{mm}^3$ 未満、または血小板数が $7万/\text{mm}^3$ で投与延期し、骨髓機能が回復後一段階減量($800\text{mg}/\text{m}^2$)で再開する。
- ◆30分間で点滴静注。(海外の臨床試験で、点滴静注を60分以上かけて行くと、副作用が増強した例が報告されている。)
- ◆特徴的禁忌:胸部X線写真で明らかで、かつ臨床症状のある間質性肺炎または肺線維症のある患者、胸部への放射線治療を施行している患者。
- ◆血管痛が現れることがあるのでその際は患部を温める。
- ◆投与後発熱することがあるので、必要時は解熱剤を服用する。
- ◆間質性肺炎が現れることがあるので、胸部X線検査などを定期的に行うとともに症状(空咳、発熱など)に注意する。
- ◆溶解液を保存する場合は室温で保存し、24時間以内に使用する。

<減量基準>

◆TS-1 腎障害時の減量の目安

80 > Ccr ≥ 60	必要に応じて一段階減量
60 > Ccr ≥ 30	一段階以上の減量投与量から開始
30 > Ccr	投与不可

